みんなでつくる未来ブック

イオンの環境・社会への取り組み

イオンの基本理念

お客さまを原点に
平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する。

イオンは、小売業が平和産業であり、
人間産業であり、地域産業であると信じ、
その使命を果たす企業集団として永続するために、
お客さまを原点に絶えず革新し続けてゆきます。

イオン株式会社
〒261-8515 千葉県千葉市美浜区中瀬1-5-1
Webサイト https://www.aeon.info/sustainability/

（2025年7月発行）

暮らしの中に
未来への種をまく

いつかの未来は「今」もう始まっている

毎日使うもの、手に取るもの、選ぶもの。

その一つひとつが、
まだ見ぬ未来とつながっているとしたら――。

何げない、今日の暮らしの中に
優しさや、気づきという、
小さな“種”をまくこと。

それが、未来をつくる
はじめの一歩になるかもしれません。

いつかの未来は、遠くにあるものではなく、
“今、選ぶ行動”から、
もう始まっているのです。

「普通に買物ができる」

そんな日々が未来だったあの頃

イオンは戦後まもない焼け野原で
お店を開きました。
一人のお客さまが言いました。
「やっと平和になったのね」。
その一言が、今もイオンの原点です。

赤い実がならない

地球からの変化のサイン

赤い南天の実が実らず、
金木犀も咲かなくなった。
「どうしてだろう?」
その問いがイオンの環境活動の
きっかけの一つとなりました。

暮らしは便利になったけど…

「ずっと」「いつまでも」の約束は?

毎日の便利な暮らしの裏で、
地球は静かに傷ついているかもしれない。
「このまま続けて大丈夫?」
その問いが、未来への約束の始まりです。

マイナスをゼロに
ゼロをプラスに
そしてプラスを最大に

目で見えにくい“ほころび”が、
今の暮らしの中に広がっています。
暑すぎる夏、予想を超える雨や風、届かない声、
つながりにくい気持ち。

そのどれもが、日々の安心を
少しずつ揺らしています。
だから私たちは、
まずマイナスをゼロに。ゼロをプラスに。
そして、プラスを大きな広がりへと
変えていけるように。

イオンは、暮らしの中の小さな「変えていく」を、
今日も一つずつ重ねています。

例えば、いきものたちが集う森を育てたり、
ペットボトルを、もう一度ボトルにしたり、
食べ残された食品を、新たな命を育む力に変えたり、
日々の買物が、地域の活動を応援する選択になったり。

そんな「日々の選択」が、未来へつながる“めぐり”をつくっています。

目指すのは現代に息づく『鎮守の森』

イオンが目指すのは、暮らしのそばにある
“鎮守の森” のような存在です。

その土地に昔から根づく木々を選び、
人々が集まる店舗に森をつくる。

地域の皆さまとともに植え、育てていく。
やがて森は、鳥や虫、小さないきものたちの
すみかになり、失われかけていた地域の
生態系が、少しずつ息を吹き返していきます。

木を植えることは、ただみどりを増やすことではなく、
その土地の自然と、もう一度つながり直すこと。

イオンの森づくりは、そんな営みの
一つひとつを大切に重ねています。

人々の想いが海を越え、「万里の長城」もみどりに染めました。

(公財)イオン環境財団は、1990年に日本で初めて地球環境をテーマとした企業単独の財団法人として誕生しました。アジアを中心とする世界各地で環境保全活動を実施、イオン店舗の敷地内だけでなく、自然災害や伐採などで荒れた森の再生を目指した植樹活動も行っています。中国の「万里の長城」の植樹では1998年の第1回から10年間、3期にわたり、日中両国のボランティア1万5,000人が、100万本の植樹を実施しました。

イオンでは、新しい店舗ができるたびに、地域の皆さまとともに植樹を行い、その土地に根ざした森づくりを進めています。そうして育まれた森には、やがて鳥や虫、草花など、さまざまないきものたちが戻ってきます。その姿を記録し、自然の変化を見守る「いきもの調査」では、これまでに2,000種を超えるいきものが確認され、イオンの森が地域の生物多様性の保全に役立っていることも明らかになってきました。

森ができたら
人もいきものも
集まるように。

森とつながる店舗づくり

地元の木の優しさにふれながら、子どもたちが自然への関心や思いやりを育めるよう、イオンは地域産の木材を活用した公共空間「モクイクひろば」を各地で展開しています。また、国産のFSC® 認証木材を使用したコンビニエンスストア店舗の開発にも継続して取り組み、閉店店舗の柱や梁など、再利用可能な木材を有効に活用しています。森を育て、使い、また育てる。イオンは、施設そのものを通じても、持続可能な循環の一端を担っています。

「(公財)イオン環境財団」の
詳細はこちら

円にしたら縁がうまれた

私たちの暮らしは、長い間「つくる、使う、捨てる」
という一方通行の流れで動いてきました。
でも今、その先にある“行き止まり”に、
多くの人が気づき始めています。

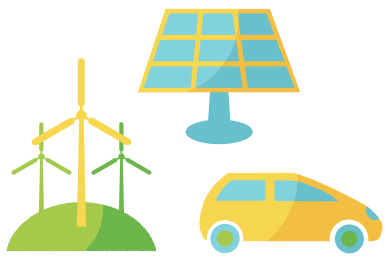
イオンは、限りある資源を未来へつなぐために、
「めぐらせる」仕組みを店舗という
身近な場所から育ててきました。
太陽の力でエネルギーを生み出し、
使い終えたペットボトルをもう一度ボトルに。
食品のくずも、畑や牧場で新たな命を育む力へ。

それぞれは小さな循環かもしれませんが、
私たちの暮らしと確かにつながっています。
イオンは、これからもこの「めぐり」の
輪を、広げていきます。

今日のペットボトルは いつかの誰かの ペットボトル。

「使い終わったあとの責任」にも向き合いたい。
イオンが店頭で資源の回収を始めたのは1991年のこと。今では、お客さまがお持ちくださったペットボトルをリサイクルして、トップバリュの飲料ボトルとしてもう一度お店に並ぶようになりました。この循環を支えているのは、日々の行動と少し先の未来を信じる気持ち。あの時の一歩が、いま“ボトル to ボトル”という形でめぐっています。

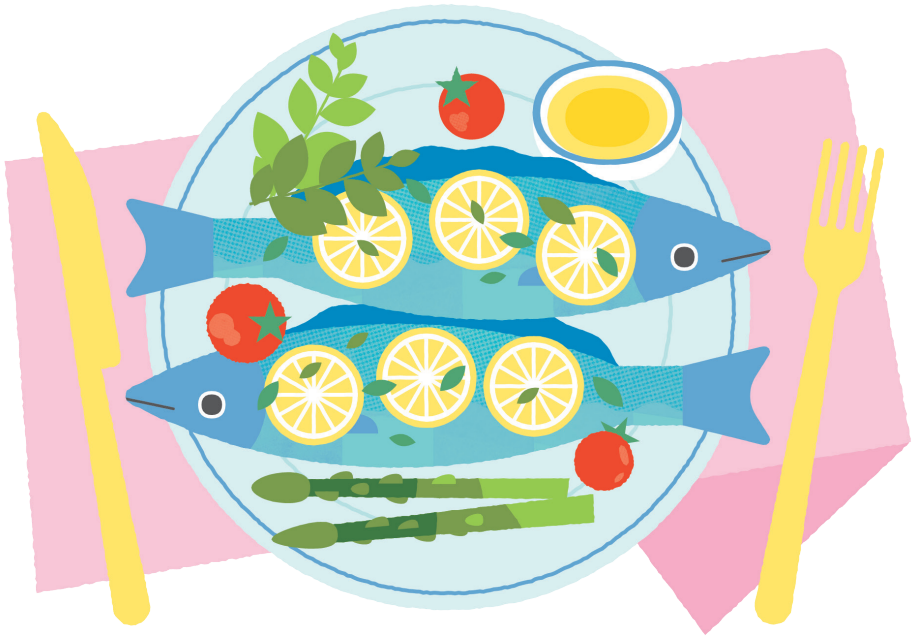
お店で創り、お店で使う エネルギーにも〝めぐり〟を



店舗の屋根に光が差しこむと、太陽の力が電気に変わります。その電気を、なるべくムダなく丁寧に使います。
遠く離れた場所で生まれた再エネも、工夫しながら店舗へとつないでいます。地域の発電所から届く再エネを、地元の中でめぐらせる形も少しずつ育ってきました。空の青さを未来にも届けるために。エネルギーの循環も、イオンの店舗から始まっています。

食べ物のいのちを、最後まで大切に

育てられ、運ばれ、並び、選ばれて、食べ物には、たくさんの人と時間が関わっています。だからこそ、最後まで責任をもって大切にしたい。イオンは、売場や調理現場での工夫を重ね、できるだけロスを出さない仕組みを育てています。それでも残ってしまう食品は、たい肥や飼料として、また新たな命を育てる力につなげる取り組みを広げています。食べ物の一生に、優しく責任を持つこと。その積み重ねが、未来の食卓を守ると信じています。



100年先も
おいしい笑顔が
見たいから。

私たちの食卓は、空や海、森とつながっています。
見えないところで多くの命がめぐり合い、
やがて恵みとなって、私たちのもとへ届いています。

例えば、海や魚に優しい漁や養殖、
水や土に配慮した農業の形、
作る人の暮らしを大切にする公正な仕組み、
森の未来を見すえた紙や木の選び方。

イオンは、自然の恵みとともに生きるために、
日々の暮らしの中で自然と調和する選択ができるよう、
さまざまな工夫を重ねています。

50年以上も前から
できるだけ
自然に近い方法で
牛を育ててきました。

イオンは1974年、オーストラリアのタスマニア島に自社の牧場を開設しました。この島は「世界一きれいな空気と水」と言われるほど自然が豊かで、牛たちは広い牧場でのびのびと育ちます。成長ホルモン剤や抗生物質、遺伝子組み換え飼料を使わず育てており、タスマニアビーフの安全・安心は、州政府の認証を受けています。

これからも
大好きな魚で
お腹いっぱいに。

魚や貝などの水産資源は、限度を超えて獲り続けると将来的に失われることが危惧されています。未来の海の恵みを守るため、トップバリュでは「サステナブルシーフード」を推進。水産資源や持続可能性に配慮した漁業を普及するため、『MSC認証』や責任ある養殖で育てられた証となる『ASC 認証』商品を取り揃えています。これらの商品を選ぶことは、生産者の方々の応援にもつながります。

一緒につくるから
乗り越えられる
壁があります。

安全・安心と自然環境への配慮にこだわったプライベートブランド「グリーンアイ」は1993年に誕生。化学合成農薬や化学肥料をできるだけ使わずに栽培した農産物から始まり、水・畜産物や加工食品などに商品を拡大してきました。今では多くの生産者とパートナーシップを結び、生産者には販路拡大を、地域の生活者には安心のおいしさをお届けしています。

小さな優しさが、つながり、めぐり、未来になる。

レシートで応援したり、地域のWAONを使ったり、
災害への備えに少しだけ関わってみたり。
普段の暮らしの中に、未来へのヒントがあります。

どれも、ほんの小さな行動かもしれません。
でも、そんな日々の選択が、地域の誰かの笑顔や、
未来の安心へとつながっていきます。

イオンは、暮らしのそばにある仕組みを通じて、
優しさがめぐる社会を育てていきます。

黄色いレシートは地域の幸せを増やすチケットです。

毎月11日に発行されるイオンの黄色いレシートをご存知ですか？ そのレシートを、地域のボランティア団体名が書かれた店内のBOXに投函していただくと、レシート合計の1%分にあたる品物が該当団体に寄贈されます。2001年からの累計で約55億円相当の品物が贈呈されました。

お買物するたび、愛する地域を元気にしています。

電子マネー「WAON」を毎日のお買物で利用することで、地域を元気にできるのが「ご当地WAON」です。ご利用金額の0.1%が自治体などに寄付され、地域の活性化や環境保全、観光振興、子育て支援などにお役立ていただけます。2009年4月に世界遺産である島根県の「石見銀山WAON」が登場して以来、183種類以上の「ご当地WAON」を発行。累計寄付金額は33億円以上になりました。

“万が一”をいち早く“いつも”に戻すために。

日常生活だけでなく、有事の際に地域のライフラインとして頼りにしていただけるよう、私たちは防災対策を進化させ続けています。地域の防災拠点となるための整備はもちろん、いち早く日常を取り戻すため、全国から被災地へ人と物を動かすことで復興に寄与することに努めています。

未来を育てる3つのちから

―イオンの公益財団法人―

環境のこと、社会のこと、文化のこと。
どれも、今を生きる私たちと、
未来をつないでいくために
欠かせないものです。
イオンは、3つの公益財団法人を通じて、
事業活動の枠にとらわれることなく、
その一つひとつに心を向け、
未来にそっと、種をまいています。

環境の未来を、森とともに

公益財団法人
イオン環境財団

地球環境をテーマにした日本初の企業単独の財団法人として、1990年に岡田卓也名誉会長相談役により設立。「植樹」「助成」「環境教育・共同研究」「顕彰」の事業を柱に活動し、人と自然が共生する持続可能な新しい関係性を構築するため、「新しい里山」づくりを目指しています。

「イオン環境財団」の詳細はこちら

社会の未来を、想いとともに

公益財団法人
イオンワンパーセントクラブ

「お客さまからいただいた利益を社会のために役立てる」という想いのもと1990年に設立。イオングループの主要企業が税引前利益の1%相当額を拠出し、「子どもたちの健全な育成」「諸外国との友好親善」「地域の発展への貢献」「災害復興支援」を主な事業領域として活動しています。

「イオン1%クラブ」の詳細はこちら

文化の未来を、創造とともに

公益財団法人
岡田文化財団

三重県の芸術文化の振興や伝統文化の育成・後援、文化財の保存・修理などを目的として、1979年に設立。「助成事業」「主催事業」「美術館事業」「奨学金事業」「さくらプロジェクト」を柱に活動を行っています。

「岡田文化財団」の詳細はこちら

次に目指す未来も
希望にあふれた
世界であるように。

未来は、誰かが大きく動かしてつくるものばかりではありません。
木を植えたり、物を大切に使ったり、次の誰かに手渡したり。

そんな小さな選択が、ゆっくりと、確かに社会を変えていきます。
「マイナスをゼロに。ゼロをプラスに。そしてプラスを最大に」。

イオンは、これからも未来の種を大切に育んでいきます。